

区 分	ア	イ	ウ	エ	オ
	一体新築型			既存施設活用型	
				処分・焼却のみ犬管理所	保護・処分・焼却は管理所
整備場所	ポリテクセンター跡地		総合保健福祉センター	犬管理所・総合保健福祉センター	
施設面積	1,300㎡	750㎡	440㎡	440㎡	314㎡
収容頭数	犬60頭、猫27匹	犬26頭、猫30匹	同左	同左	同左
施設構造	鉄骨ＲＣ造平屋建	鉄骨一部ＲＣ造平屋建	同左	モルタル造 30㎡（既存） 鉄骨一部ＲＣ造平屋建 410㎡	ブロック・モルタル造 89㎡（既存） 鉄骨一部RC造平屋建 225㎡
概算整備費	13億5,000万円	5億2,000万円	3億7,000万円	3億円	2億1,000万円
付帯工事費	2億5千万円（進入路 1.3億円、給水設備 1.2億円）		0	0	0
合 計 A	16億円	7億7,000万円	3億7,000万円	3億円	2億1,000万円
職員体制（現行：正規4、臨時1）	正規6人、臨時2人	正規4人、臨時2人	正規4人、臨時1人	同左	同左
職員人件費（年間） ①	4,550万円	3,150万円	2,975万円	2,975万円	2,975万円
年間管理運営費 ②	4,291万4千円	3,423万円	2,850万8千円	2,850万8千円	2,633万7千円
30年間所要の改修・解体・新築等 ③	0	0	0	3,000万円 （解体・新築）	7,200万円 （解体・新築）
30年運営費 B（①＋②）×30＋③	26億5,242万円	19億7,190万円	17億4,774万円	17億7,774万円	17億5,461万円
総 計 A＋B	42億5,242万円	27億4,190万円	21億1,774万円	20億7,774万円	19億6,461万円
メリット			・コストが比較的安価	同左	・コストが安価
			・保健所の職員、機能、設備が活用できる	同左	同左
	・交通の利便性がやや高い	同左	・交通の利便性が高い	同左	同左
	・近隣に住宅がない	同左	・近隣に住宅が少ない	同左	同左
	・動物愛護管理の一体運営が容易	同左	同左	同左	
					・捕獲直後の犬を分離管理できる
デメリット	・コストが莫大	・コストが高額			
	・付帯工事費が莫大	同左			
	・保健所に窓口対応職員の配置が必要	同左			
			・近隣に住宅が存するため屋外運動時の鳴き声等の影響	同左	同左
			・捕獲直後の野犬等の収容による感染症等の危険	同左	・施設機能が分離するため運営に工夫が必要
	・動物死体の焼却設備設置への地域住民の理解	同左	同左		
	・地すべり防止区域指定	同左			・既存犬管理所の飼育環境の改善が必要